

慢性便秘症におけるルビプロストンの有効性と副作用について に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成28年08月01日～平成30年03月31日

〔研究課題〕 慢性便秘症におけるルビプロストンの有効性と副作用について

〔研究目的〕 便秘は生活の質に大きく影響する病態で、わが国では高齢化や食生活の欧米化により最近増加していると言われてしています。ルビプロストンは慢性便秘に効果を有する薬剤ですが、どのような患者さんに有効か、また副作用として吐き気や下痢が知られていますが、服用前にその出現を予測することは難しいのが現状です。本研究はルビプロストンを投与された患者さんの医療記録から有効性と副作用を調査し、背景因子や併用薬との関連を明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 慢性便秘症の治療において、ルビプロストンの副作用がどのような患者さんに出やすいかといった傾向がわかり、副作用を減らすことが期待できます。

〔対象・研究方法〕 医療記録（カルテ）から、2013年以降にルビプロストンを投与された慢性便秘の患者さんの背景や有効性、副作用を調べ、統計学的手法によって特徴を明らかにします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室

〔個人情報の取り扱い〕 個人が特定され得る記録については暗号化し、学内の規定（プライバシーポリシー）に従って、学内の施錠可能な場所に保管します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 教授 山本貴嗣

研究分担者：帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 教授 喜多宏人

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211（代表） [モバイル 7030]